

第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会

議事録（要点筆記）

日時：令和元年7月23日（火） 15：00～16：40

場所：裾野市役所 第一委員会室

出席者：委員長 村山功 副委員長 湯山芳健

委員 横山碧 委員 池谷淳子 委員 小島理絵 委員 三浦靖幸

委員 小野島洋子 委員 荻田和彦 委員 朝妻正昭 委員 山中なほみ

【教育委員会】

教育長 風間忠純 教育部長 杉山善彦 教育総務課長 勝又明彦

学校教育課長 荒井賢二 生涯学習課長 木原慎也

学校教育課課長代理 渡邊清 教育総務課課長代理 二ノ宮貴之

教育総務課主幹 鈴木直美

傍聴人3名

1. 開 会

教育部長

ただいまから「第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。

この委員会は、「裾野市の教育のあり方検討委員会設置要綱」に基づき設置されるもので、教育効果を高めるための適正な教育環境につきまして調査・検討するための委員会となります。

どうぞよろしく願いいたします。

2. 委嘱状・任命書交付

各委員を代表して村山委員に対し教育長より委嘱状を手交。その他の委員には、机上に委嘱状及び任命書を配布。

3. 教育長あいさつ

裾野市のまちづくりは人づくりからという考え方を受けまして、裾野市教育委員会は裾野市の教育の将来像を探ることを課題として「裾野市の教育のあり方検討委員会」を設置すること

といたしました。

裾野市におきまして教育課題として挙げられるものは、教育を取り巻く環境整備や教育施策の内容などいくつかのものがございます。その中でも特に市の人口が減少傾向をたどることと、本市の小中学校の校舎の老朽化が進み、耐用年数に近づいていることを考えますと、学校の再編成、学校枠の再構成につきましては、先ずはじめに考える問題として受け止めているところでございます。

学校の枠組みを考えるという問題につきましては、住民の方、深い学識を持った方、教育に関心を持っている方々の意見を十分に聞くことが必要であるとの判断から、10人の方に委員をお願いすることにいたしました。委員の方の中には委嘱によりお願いをした方、公募をもとにお願いをした方がいらっしゃいます。

学校は、言うまでもなく子どもの教育を進める場所であり、教育環境の充実の観点はもとより、学校が地域の中心となっている事実から考えることも必要であります。委員の皆様には、このような役割を持つ学校についての意見を出していただきたいと思っております。

議論は、裾野市の教育をどう進めるかという観点から、将来の教育環境を整えるという高い見地から進めていただければと思っております。

なお、この委員会は、本年度中の期間を使って進めることを計画しております。委員の皆様方には、大変お忙しい中、ご迷惑をお掛けいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 委員長・副委員長選出

委員長に村山委員、副委員長に湯山委員を選出。

5. 協議事項

(1) 学校教育の現状報告及び課題確認について

説明者：教育総務課課長代理

裾野市教育振興基本計画（平成27年3月）からの課題

○学校教育の現状と課題

- ① 学力について
- ② 体力・身体の育成について
- ③ 小中学校の環境整備
- ④ 就学環境の整備
- ⑤ 開かれた学校運営と授業の質の確保
- ⑥ 多様な教育機会の確保

について説明

説明者：学校教育課長

裾野市教育振興基本計画に掲載以外の事項に関すること

1：学区・校区について

- ① 指定校に関すること
- ② 遠距離通学者に関すること
- ③ 地域との関わり・コミュニティスクールに関すること

2：子どもたちの表れ

- ① 学力状況（全国学力・学習状況調査）に関すること
- ② 不登校児童生徒に関すること
- ③ 特別支援教育に関すること
- ④ 部活動に関すること

3：教員について

- ① 年齢構成に関すること
- ② 人材に関すること（市講師・支援員・SSW等）
- ③ 働き方改革に関すること

4：新学習指導要領対応について

- ① ICT環境に関すること
- ② 研修、授業改善に関すること
- ③ ALTに関すること

について説明

説明者：教育総務課課長代理

1：児童・生徒数の推移について

- ・各小学校の児童数の推移
- ・各中学校の生徒数の推移

2：校舎等の建築一覧について

- ・校舎・体育館の建築年、面積、経過年数、大規模改修年、耐震性能
- ・各小中学校の建物配置

3：ICT環境について

- ・教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画
- ・2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針で目標とされている水準に対する裾野市の実態

について説明

【意見等】

委員長

教育課題は、非常に多岐に渡っているわけですが、特に論点となりそうなものは前半で色々と挙げられていたと思います。また、後半はそれに関する資料を説明いただいたという形となります。

はじめに、裾野市の教育振興基本計画の話から始まっておりましたが、この委員会も、突然この委員会が出来ているわけではなく、そういった過去の経緯を踏まえての継続した議論の形となっているわけです。我々は我々でももちろん新たに一から考えて何らかの形を出すということは構わないと思いますが、課題自体は以前からずっと引き継いでいるということは、ご理解いただきたいと思います。

また、只今色々とご説明いただいた点に関して実際に議論を進めるのは、次回以降ということになるわけですが、説明を伺っていて、このあたりがよく分からないとか、事実関係、これはどうなのだろうといった疑問等がございましたら、この時点で事務局に問い合わせただけだと助かりますが如何でしょうか。

委員

全体の説明を伺い教育課題は、非常に幅が広いわけですが、はじめのあいさつで教育長が重点的なお話をされましたが、教育の現場を検討するにあたり、あまり先入観を持ってはいけないのですが、教育長が言われたあたりで解釈して良いのか、それとも我々が考えるときは全体を見て、同じように考えていくのか、それはどのように解釈していくのでしょうか。

委員長

学校のことについては、ある意味学校の先生方のほうがよくご存じで、解決等についても一番考えやすい立場にいらっしゃるの一方ではあります。しかし、やはり地域の学校という部分もありますし、その子どもが通っている、或いは自分が通ったことがある、色々な形で皆さん学校に関わっておりますので、学校に関しては、ありとあらゆることが、皆の問題であるということになりますので、色々なことについてご意見いただければありがたいと思います。また、次回以降の議論の中で、やはり中心的になってくることは、教育のあり方とそれを支える環境という2つの問題になってくると思います。

環境の話の中では、やはり児童生徒数の推移ですとか、学校の校舎の建築状況であるとか、或いは教員の年齢構成とか色々そういった問題というものは、一緒に考えていかなければいけない課題であるかなと思っています。

ただし、あまりこちらのほうでこのことについてだけ考えましようと言ってしまうと、事務局がこれまでの経緯を踏まえて考えた限定した課題しか我々が検討しないということになっては、せっかく集まっていたのに、何か非常にもったいないと思いますので、是非お気付きの点がありましたらどんどん議論していき

たいと思います。

委員 資料に関係するかもしれませんが、小中学校の児童生徒の数に関して将来的な予測をすることはなかなか難しいかもしれませんが。色々な計算の仕方が有るかと思いますが、今後5年先、10年後の子どもの数を推測することは、どのように考えられますか。

事務局 今後の児童生徒数の予測につきまして、やはりどのような条件を付して行うかにより出される結果が異なってくることはあります。我々が一つ推計で用いた条件は、現在の児童生徒と未就学児がそのまま現在の居住地に留まるとして、また出生者数がそのまま推移すると仮定してシミュレーションしてみました。その結果は、やはり冒頭説明させていただいた、微減状態が続くとした教育振興基本計画と同様、今後もその傾向が続くと思われまます。

委員 ある程度計測、積算すれば、幅はあるかもしれませんが、具体的な数字は出てくるということですか。

委員長 それは、学校区別に試算とかをされているのですか。

事務局 はい、各小学校区ごとに先程申し上げた条件を今後の児童数を試算しております。その結果、学校によっては増加に転じる学校区もありますが、市内全体としましては微減傾向に至る結果になっております。

委員長 それでは、今後第2回の委員会での議論によっては、そういった資料も提示いただくということよろしいでしょうか。

事務局 はい。

委員 人口の増加に関する質問なのですが、以前ニュース等で市内大手自動車関連企業の跡地にスーパーシティができるような構想を聞いたのですが、そこは子どもが住むといたしますか、人が増えるようになるのでしょうか。

事務局 まだ、今後どうなるかということに関しましては、はっきりとした情報が手元にございませぬ。市内にある工場が東北に移られるということでもかなり社員の方が移動されるという情報はありますが、工場の撤退した後の利活用について、どういう方向にいくかについては、まだはっきり情報がない状況です。

委員長 それは、5年後であればある程度の見通しは立つのですか。

事務局 いつ、どういったことを企業側がやるかということはありませんが、富岡地区では、総合グラウンドの北側に土地区画整理手法に基づいた住宅地の開発の方を進めている状況はあります。そちらの区画数は約100区画程度であったかと記憶しておりますが、住宅地の開発が現在進められております。

委員 内容ではないのですが、我々が子どもの頃はベビーブームと言われた時代でした。昭和20年代では、クラスは十いくつもありましたし、その数をデータに入れますと桁違いの棒グラフになってしまいますが、参考に一本当時のデータを入れていただくと年を取った方たちは、いかに今は児童生徒が少なくなったことが分かるかと思えます。参考にその当時のデータもあつたらどうかと思いました。

また、窮屈さというわけではありませんが、児童生徒数の推移と学校の面積が出ておりますので、子ども達の一人当たりの占有面積を出していただけると、そのあたりの数字も判断のヒントになるかと思えます。

委員長 ご自分が子どものとき行っていたときの学校のイメージが強いものですから、そのときと比べてどうなんだというデータの出し方は、それぞれ世代ごとに違っていかと思います。静岡県の小学校では学級定数が最大のときは1クラス56名でした。今は35人です。ですから、その時点でもかなり状況が変わっております。

委員 11ページのブランクとなっているところはたまたま数字を抜いてあるということでしょうか。

事務局 数字としてはあるのですが、5年ごとでグラフをまとめたものですから、それに合わせた表となっており、まったく数字が無いわけではありません。ただし、向田小・千福が丘小・南小といった新しい学校につきましては、開校以前の情報はございません。

委員 人口との関係があるかもしれませんが、例えば三島市の坂小学校のような規模の小さい学校が特区制度を取り入れております。それによって子どもの数が増えたと聞いたことがあります。そのような取り組みをやっているところもあるわけですが、裾野市においても、計画的なものが今後あるかということをお伺いします。

事務局 学区に関して特区のようなものを設ける計画は現時点ではございません。

委員長 今ご提案いただいたように、そういうこともすべきだという話であればこの委員

会としてそういうことを提言することはあり得るかと思います。

委員 　ただし、総合的に考えなければいけないと思います。三島がそうだからといって裾野を取り入れて必ずしも上手くいくとは思いません。そういうことが、どうか思いました。

委員長 　アイデアはたくさんあったほうが良いと思います。それを市としての方針とするのか、地域で、もしそういうことができるのであれば考えてくださいといったような形にするのか、最後にどうまとめるかはこちらの議論の結果次第だと思いますが、そういうアイデアは今言っていたかなくて出てこなかったかと思います。

他にも何か、先程の事務局の説明以外にこういう観点があるのではとか、こういう課題を忘れていないかという、お気付きの点がありましたら是非お話いただきたいと思います。

基本的には今までの話は、行政からのお話なわけですので、実際に学校に通っている子どもの話とか、そういう話は出てきておりませんので、もし何かそういったことで、こういう観点があるといったお話がありましたら、出していただくと2回目以降の委員会に反映できるのではないかと思います。

委員 　今回資料をいただいて、事前に私も目を通させていただいたのですが、いったいこの場でどんなお話があるのかという部分が、まだ分からない状況でしたので、友人などと、こういった機会をいただいたという話をしていました。その中の話で出てきたことが、それぞれの学年に支援員の方がいらっしゃいますが、その数が減っているように感じるという話題が出ています。

私も直接参観日で子ども達を見ていると、やはり先生方がすごく大変だろうという感覚を感じることがありました。それは、私の息子の学年も3クラスに対して1人、担任でない先生がついてくださっていると聞いていますが、それでは、先生方は回らないという言葉をよく聞きます。私の息子に今日先生とどんな話をしたか聞きますと、話していないという言葉をよく聞きます。それは、先生が忙しいからなのか言いますと、だいたい休み時間はまる付けをしていたりとか、すごく丁寧に見てくださる先生なので、とてもありがたいのですが、やはりそういう仕事が忙しいようであり先生とのコミュニケーションが取れていないと感じる場面が多いと思います。

そういった先生方の人数の確保が、もう少しできるようであれば、ありがたいという声が身の回りにありますので、お伝えしておきたいと思います。

委員長 　その件につきましても記録を残していただき、検討に回せればと思いますのでよろしくをお願いします。

委員 学力調査の結果で小学校のときは、県とか全国の平均を上回らないものがいくつかあったのですが、中学になると県の平均を上回ってきます。体力テストの結果を見ましても中学の方が小学校のときよりも体力がついているような結果を資料から読み取れましたが、その代わりに不登校が、中1ギャップと言われておりましたが、急を増えています。だから、体力とか、勉強とか、そのペースに乗れている子と、中学になってついてこれない子と、少し差が出てきたと感じます。私が学校にいたときには、学校のことしか見えませんでした。親になってみますとやはり小学校と中学校と全然違う世界だと思えます。

委員長 全体的な傾向の話なのですが、静岡県は割と小学校はのんびりしておりますが、中学校になると学習時間は一気に増え、部活もやり、特に運動部の割合が非常に多いです。静岡県はそういう意味では、中学生になると勉強に、運動に、すごい頑張る、少し生活が一変する傾向があり、それで高校入試が終わりますと一気にだらけるという傾向があります。そのあたりは、頑張ること自体がすごくストレスになっており、それを周りの子にぶつける子たちも出てきたりして、不登校が増えていく原因にもなったりしておりますので、なかなか一筋縄ではいかないといえますか、明るい面もあるので、結果的にそれが暗めにまわるところの部分になります。小学校も中学校もずっとのんびりしたまま高校まで行ければ不登校がそこまで増えなくなるのかなという気もします。

また、中1ギャップがいつもクローズアップされるのですが、中1から中2になるときもかなり不登校になる子どもの割合が多く、必ずしも小学校と中学校の間のギャップが不登校を生んでいるというわけでもありません。そのあたりは、中学校という環境が子どもにとってはある程度過酷な環境なのかなと思えます。

そういったことを、どこで、どのように踏み込んで考えればいいのかがよく分からないのですが、ただ教育環境としての学校の適正規模みたいな話を考えるときには、そういった観点も念頭に置いておく必要があると思えますので、このことも頭に入れていきたいと思えます。

委員 教育のあり方を検討する上で、やはり予算的なものが一番大事であると思えます。やはり支援員も、以前は各クラスに一人ずつ配置があったのですが、財政的な問題が響いているところがあり、ですから、裾野市としてどう予算を確保していくかということが何かないと校舎を建替えるといっても、それでは何年後に東小・西小、中学校の校舎を建てられるのかということが、何かその見通しがないと何か話し合っても夢物語で終わってしまっただけではもったいないなと思えますので、そのあたり裾野市の財政、予算、みんなの力でどのように裾野市を盛り上げていくかということも大事な事かと思えます。教育だけではなく、裾野市を元気にするために何

をしていったらいいのかということも大事かと思えます。

委員長

議論をするためには予算のことも分かっていなければならぬということは、確かにおっしゃるとおりです。ただし、校舎の老朽化の話が出ていましたが、例えば60年で建て替えとしたら、今後最初の校舎は10年後くらいにはという話になるのですが、そのときに、2・3校の校舎が立て続きにあった場合には、本当に立て続けに建てられるのかという話ですとか、そうするとその時期に建て替えしない学校は、新しい校舎になった学校がある中であと20年位は、古い校舎のまま続けなければならない、そういった見通しもある程度ないと、色々な判断ができないと思えます。

したがって、そういった財政的な見通しももう少し議論の中で材料としていただけると助かります。

ただし、先程ICTの話も出ましたが、これまであまり使っていなかった部分に、お金が必要となってくるという部分もありますので、これまで出していた部分のお金をどこかで削らなければいけないということも念頭に置きながらなるべく現実的な形で議論をしたいと思えます。

委員

先程、支援員のお話が出ましたが、結局お金があればそれでいくらでも付けられるのですが、お金がない中で工夫をしていかなければいけない。そうしたときに、学校支援地域本部事業とか、地域学校活動とか、コミュニティスクールとか、色々あるわけです。地域の人材というのは、本当にいい人材、優れている人材がおりますので、そういった人たちを活用していくということも、これはお金がない中で課題の解決に繋がるのではないのでしょうか。

委員長

やはり、なるべく知恵を出してお金を出さないで済むように色々と考えていきたいと思えます。

委員

今、お金を出さずに知恵を出すとおっしゃっていただいたところで申し訳ないのですが、うちの子は中3なのですが、クラスの女の子から預かったアンケートを書くよう先日持ってきまして、それが裾野市への提言をまとめるためのアンケートでした。多分、クラスの子とその親と書いてもらいたいということで、勉強しやすく人が来るためには学校にはどんな設備が必要だと思いますかといったものでした。しかし、エアコン以外に2つ書いてくださいと言われてすごく悩み、今日が提出期限でしたので、昨晚すごく考えましたが西中は生徒の数は増えているものですから、少子化の危機感というものは正直言ってあまりありません。それで、人がより集まるようにするにはと考えたときに、大規模校ならではの特色が出せればいいかなと、私が回答したものはランチルームの必要性を回答しました。大規模校だからこそ大変かと思えますが、大規模校ならではの特色も生かせることがランチルームとか多

目的ホールは、違った意味で社会性が身に付くのではないかというところを考慮して、アンケートに書かせていただいたのですが、お金の面もあると思いますが、先日そのようなアンケートをいただきましたので、そのように回答しました。

委員長

そうですね、すっかり大規模校のことを忘れていました。どの子も自分の通っている学校で幸せになれるように、やはり満遍なく目配りしたいなと思います。

今ちょうどアンケートの話をいただきましたので、我々も自分たちだけで考えているのでは、どうしても視野が狭くなりますので、アンケート調査を実施したいと考えてらっしゃるので、協議事項の(2)のアンケート調査の実施方法、調査内容について事務局から説明をお願いします。いただけますか。

(2) アンケート調査の実施方法及び調査内容について

説明者：教育総務課課長代理

目 的

当委員会での調査・検討作業を進めていくことや、次年度に予定されている次期教育振興基本計画策定作業を進める上で必要となる、ニーズ等の把握や今後の教育施策策定等の基礎資料とするため、市民を対象とするアンケート調査を実施するもの。

調査概要

- ① 小学校5年生 489人と中学校2年生 446人（計 935人）
- ② 前記①の保護者（935人）
- ③ 一般市民（800人）
- ④ 就学前の児童（年長児）を持つ保護者（約500人）

①・②・④は学校、保育園、幼稚園にて配布・回収、③は郵送配布・回収調査を行う。

※調査項目は、第1次教育振興基本計画策定の際の項目をベースとし、これに「学校のあり方」に関する事項を追加する。

アンケートの配布・回収時期

- ・9月発送、10月回収 予定

委員長

アンケート調査を行いたいということですが、このことについて何かご質問はございますか。これ自体は、今日の議論ではなく、次のスケジュールの話にもなってしまいますが、2回、3回目以降で議論していくという形となります。

委員 前回の基本計画の時のアンケートの項目に、新しく項目を追加していくのですか、それとも前回のアンケート項目のいくつかを削除し、そこに新しい項目を加えていくのですか。

事務局 そのあたりも含めまして事務局側でアンケート項目を作成させていただき、委員会にお諮りさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長 では、次回委員会に来られるときには、事前にアンケート項目をご覧になってくれるようお願いいたします。

他にアンケートについての質問はございますか。

委員 対象として小学5年生と中学2年生の児童生徒とその保護者をお願いすることは、何か理由があるのでしょうか。

事務局 アンケートの項目にもよるのですが、小学5年生ですと自分の考え方がしっかり書ける、或いは意思が表に出せるものと思います。また、中学2年生に関しては、中学生になって1年を経過し、中学校と小学校の比較といたしますか、そういったところを踏まえ回答してもらえるものと考えており、小学5年生と中学2年生を対象として考えております。

また、今回小学校に入る前の年長児の保護者を対象にしております。保護者の方の中には、初めて小学校に入るお子さんのいる方もおりますので、どういう学校生活を希望するか、そういった点を新しく調査をしてみたいと思いい調査対象に加えております。

委員長 細かい話ですが、年長児の保護者というのは、既に小学校や中学校に子どもはいない保護者ということですか。

事務局 いる可能性はあります。上のお子さんが既に小学校、中学校にいる保護者も対象となる可能性はあると思います。

委員長 そうしましたら、そのアンケートの話も含めまして、本年度のスケジュールにつきまして説明いただけますか。

(3) 本年度のスケジュールについて

説明者：教育総務課課長代理

本年度中に5回の委員会の開催を予定している。開催時期については概ね資

料のような日程で行いたいと考えているが、内容も含め今後調整させていただきたい。

なお、年度末には当委員会の成果として提言書等、何らかの取りまとめができればと考えている。

【第1回】

時 期：7月23日（火） 午後3時より

内 容：・教育の現状報告及び課題確認
・アンケート調査の実施方法及び調査内容について
・本年度のスケジュールについて

【第2回】

時 期：8月下旬頃（8月29日〔木〕）

内容（案）：・課題解決に向けた取り組みについて
・これからの教育環境に求められること
・アンケート調査内容の確認

【第3回】

時 期：10月下旬頃

内容（案）：・アンケート結果（速報値）の把握及び分析について
・アンケート結果を受けてのこれから目指すべき教育環境について

【第4回】

時 期：1月上旬頃

内容（案）：・学校の規模及び学校の配置について
・学区の考え方について

【第5回】

時 期：3月下旬頃

内容（案）：・あり方検討委員会本年度調査検討結果のとりまとめ
・これからの目指すべき教育環境について
・今後の委員会の進め方・取り組みについて

委員長

以上のような予定になっております。本日は、何のために集まるのだろうと疑問に思いながら来られたかと思いますが、あまり最初にこの話だけやりますと言ってしまいますと色々なアイデアを出していただけなくなりますので、今回はフリーにお話させていただいた結果としまして、やはり大規模校の魅力も出していかねばいけないですとか、特区みたいな仕組みで何か打開できないかですとか、色々なアイデアをいただきましたので、そういったところを折り込みながらなるべく創造的な問題解決をしていきたいと思っております。この内容を見ていただければ分かりますように、第4回には学校規模及び学校の配置について、学区の考え方、学習環境に

ついてという形で、やはり子ども達の学習環境という観点から学校規模や学校の配置について検討していくことが、メインとなるように思います。

ただし、今まで皆様から出していただいた、色々な観点を上手く生かす形で、こういうことを議論していくことを考えていきますので、よろしいでしょうか。

そうしましたら最後に次回委員会の開催日についてご説明ください。

(4) 次回委員会の開催日について

説明者：教育総務課長

次回の委員会は、8月29日（木）午後3時から 市役所地下会議室にて開催。

委員長 そうしましたら、8月29日の午後3時から地下会議室でお願いします。

予定されていましたが4つの協議事項につきまして一通り議論を終えましたけど、これだけは言っておきたいとか、何かお気付きの点がありましたら、お願いします。

委員 先程、お金の話が出たのですが、教育の現場におられる方は、非常に痛感されているかと思います。個人的な考えかもしれませんが、やはり子ども達に対して検討するときには、あるべき姿というものをやはり第一に考え、結果としてそれを実行するときには、当然のことながらお金の制約等もあり、あるところでは妥協しなければならない部分もあるかもしれませんが、検討委員会としては、あくまでも子ども達第一でこういうものを検討して進めたいと思います。あまり最初にお金のことばかりを考えないほうがいいのではないかと、考えてしまうとそれで萎縮することも考えられないことはありませんが、やはり子ども達重視の進め方のほうがいいのではないかと個人的には感じています。先生方には、そんなこと言ってもいつもお金のことを言われているのでと言われそうですが、そのように感じております。

委員長 お金に対して大らかな人とシビアな人がいて、議論をしてもいいと思います。しかし、基本的にはやはり子ども達の学習環境としての学校ということが一番を考えていただければと思います。

そうしましたら、以上で議事が終了しました。皆さんご協力ありがとうございました。議事を事務局にお返しします。

6：その他

説明者：教育総務課長代理

あり方検討委員会事務局名簿と連絡先について説明。

7：閉 会

教育部長

次回の日程につきましては、8月29日（木）となりましたので、よろしくお願ひします。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。

以上をもちまして、「第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

16時40分 会議終了